

意見集

平成25年9月

函館市まちづくり会議

目次

はじめに	—————	1 ページ
テーマ別意見	—————	2 ～ 22 ページ
テーマ1. 市民生活		2 ～ 10 ページ
テーマ2. 子ども・高齢化		11 ～ 16 ページ
テーマ3. 経済の活性化・観光の振興		17 ～ 22 ページ
人口減少に関するアンケートについて	—	23 ～ 26 ページ
付属資料	—————	27 ～ 29 ページ

はじめに

女性や若者の視点からの意見等を函館市のまちづくり施策に反映させることを目的に、幅広いテーマで意見交換をする場として「まちづくり会議」は設置されました。

私たち女性委員9名と若者委員10名の合計19名は、第2期の委員として平成24年10月から1年間に渡り、普段の生活の中で感じていることや、函館のまちづくりに対する思いなどについて、自由闊達に意見を述べ合いながら議論を重ねてきました。

各委員が特に興味・関心を持つテーマの中から、「市民生活」「子ども・高齢化」および「経済の活性化・観光の振興」の3点に集約し、議論を重ねる中で様々な意見や感想、考え方を出し合ってきましたが、会議を通して、どうしたらこのまちをもっと良くすることができるか、という思いを共有できたと感じています。

このたび、委員の任期終了にあたり、これまで議論してきた内容をもとに、意見集を取りまとめました。この意見集には「女性」と「若者」の視点から出された、これからの函館のまちづくりについてのヒントが含まれていると思っています。

今後のよりよいまちづくりに役立つことを願い、ここに提出します。

平成25年9月 函館市まちづくり会議委員一同

※ 意見集の内容について

各委員がまちづくりについて興味・関心のあるテーマを出し合った上で、自分達の思いや考え方について議論を重ねる中で出された意見などを、箇条書き形式で取りまとめたのがこの意見集になります。大きく3つのテーマに分類し、それぞれのカテゴリーごとに意見をとりまとめています。

テーマ1. 市民生活

1. 市民に効果的な情報の広め方
2. 市民団体やNPO団体の現状とその活動について
3. 地域を活性化させる多世代間の交流
4. 水族館等, 市民教育の普及を促進させる施設の建設について
5. 函館の魅力の維持, 改善点など
6. 防災・防犯について
7. 住民が地域に住む中で困っていることは何か, ニーズを探る
8. 歴史的遺産の保存, 継承について

1. 市民に効果的な情報の広め方

テーマに関する主な意見

(1) 市民ニーズを把握するために

- ・市民アンケートの実施。(SNSの利用)
- ・付加価値をつける。(アンケートに答えると景品が当たるなど)
- ・年代別に情報を広める最適な手段を調査し把握する。

(2) 情報伝達の手段

- ・効果的に情報を広めるため、自分達の生活と関わりがあるように、情報に興味を持ってもらえるように伝えることが重要。
- ・子どもを巻き込むとその親など多世代に情報が伝わりやすい。
- ・市政はこだてをもっとうまく活用する。特に、若い世代に興味を持ってもらえる(見てみたいと思う)工夫が必要。
- ・「市政はこだて」というタイトルがとっつきにくい(特に若い人たちにとっては見たいという気にならない)のでタイトルを変える。「市政」という部分が堅いイメージ)
- ・市政情報も大事だが、若い人たちが興味を持つような特集・連載などの掲載をするのはどうか?
(例：市内のスイーツ店を写真付で毎月紹介するコーナーなど)
- ・情報の広め方として、若者はスマホ等、高齢者はペーパーによる情報提供を希望している。
- ・SNSは若い世代で多く利用されている。

(3) 情報伝達の活用方法

- ・公共交通機関を上手に活用するため、路線や乗り場、到着時刻などの情報を広報紙などの紙媒体でも広くアピールする。
- ・安心メールシステムを市民全体に広げる。
- ・誰もが気軽に意見を述べられるシステムをつくる。「市民の声」をもっと広く周知する。

2. 市民団体やNPO団体の現状とその活動について

テーマに関する主な意見

- ・各大学にまちづくりに関しての窓口を設けることにより，市民団体と学生が連携して効果的に活動できることもあると思う。反対に，学生から市民団体などへアプローチができる窓口が，市役所にあると良いのではないか。
- ・大学に市民団体向けの窓口を設置し，学生と団体との連携向上を図る。学生が市民活動に協力していくことで事業がはかどる。
- ・多数あるNPO団体同士の連携がとれていない。もっと連携することができれば大きな相乗効果がある。
- ・NPOの資金不足が顕著であり，企業のCSRによる連携強化運営講座を開設するなど，NPOの活動をサポートする体制を構築する。

3. 地域を活性化させる多世代間の交流

テーマに関する主な意見

(1) 町内会などを利用した交流の場の提供

- ・町内会を活用して多世代交流の場を設ける。
- ・各町会の特色を生かしたセミナーなどを開き「未来は明るい」と思わせてくれる様な人と若者が交流する。
- ・多世代間にとって魅力的なイベントを町会で行う。
(ゆるキャラの作成, 環境活動の取り組み, スポーツ大会等)
- ・交流の場(フリースペース)をまちなかや公共施設内に点在させる。
(共通の多世代交流マークを作ったり, 専用カフェを設置したりする)

(2) その他の意見

- ・バス・電車の無料乗車カードの支給でまちの活性化を図る。
- ・若者が楽しむ娯楽施設・テナントが少ない。
- ・若者向けファッション店に期間限定で来てもらう。
- ・高齢化社会では, 高齢者や求職者などが自立していくためのアプローチを増やすことで, 地域の活性化に繋げる。
- ・小中学校に定年を迎えた人を招き昔の遊びを教える。
- ・免許取得後の若者に, 練習の機会として交通手段のない高齢者(買い物難民)のために送迎をする。
- ・多世代間が交流する場が少ない。知る機会がない。

4. 水族館等，市民教育の普及を促進させる施設の建設について

テーマに関する主な意見

(1) 水族館の建設について

- ・海洋研究施設に観光的な要素も加えて地域活性に繋げる。
- ・子どもたちが楽しみながら学べる水族館を緑の島に建設する。
- ・水族館建設を実現するために，レジャー施設よりも研究施設の一つとして捉える。
- ・北大水産学部の学生を資源として活用し，人件費抑制を図る。
- ・リピーターをつくる。
- ・水族館を作ることは良いがその後の維持経費や集客などにリスクがある。
- ・民営で水族館をつくることを模索するため大学にサークルを立ち上げた。

(2) その他

- ・キッザニアを招致することは，子どもたちの経済感覚を養う教育面と観光客誘致の双方のメリットがある。

5. 函館の魅力の維持，改善点など

テーマに関する主な意見

(1) 市民の観光客への対応

- ・市民一人一人の観光都市としての意識が，観光客を迎え入れる姿勢に繋がりがり，結果として魅力ある観光都市函館が維持されるとともに観光客（リピーター）増に繋がるのではないか。
- ・おもてなしの作法などを市民が学ぶ場（講習会など）が必要。

(2) 観光スポットの周知

- ・点在する観光スポットを繋げるとより魅力が増すのではないか。
- ・あまり知られていない観光スポット（裏夜景など）をもっとアピールする。
- ・函館は，全国的にも有名だという思い込みがあることで，PRが不足しているのではないか。

(3) その他魅力の維持

- ・函館に縁のある大財閥の方に財政支援を呼び掛ける。
- ・観光地のイルミネーションに合わせ，まちなかや道路でも一斉にできると魅力が増す。

(4) その他改善点

- ・元町や五稜郭の駐車場整備。（足りない）
- ・交通の便が整っていないことが観光客減の原因ではないか。

6. 防災・防犯について

テーマに関する主な意見

- ・車を所有していなくても緊急時に使えるカーシェアリング制度を導入する。
- ・防災・防犯について、キャップ（※CAP）の活動を活用する。
- ・自分の避難場所について市民はよく知っているのか？
（ハザードマップの周知，公開）
- ・防災や防犯について積極的に情報提供し，興味を持つ人を繋げることで防災・防犯活動の向上に繋げる。
- ・あんしんメールについて，自分に関係のない情報であっても，それを受信するだけでも，防犯意識が高まると思うので，より多くの人を利用すべきものだと感じた。

※CAP…Child Assault Prevention の略。

子どもへの暴力防止・人権教育プログラムのこと

7. 住民が地域に住む中で困っていることは何か，ニーズを探る

テーマに関する主な意見

(1) 生活者の交通手段の確保・利便性の向上

- ・生活者の足の確保を兼ね，観光スポットを繋ぐバスを走らせる。
- ・観光用の路線バスを市民生活用に調整，アピールする。
- ・市電，函館バスの営業活動が足りないような気がする。利用者が増え，料金が安くなれば交通の不便が解消されるのではないか。
- ・年始の夜に交通機関がなく不便に感じた。
- ・車がないと郊外のショッピングセンターまで行くのが不便。五稜郭や駅前にも若者向けのテナントがあればよい。
- ・交通機関が少ない。

(2) 冬場・夜間の交通不便について

- ・積雪による道路事情の悪化は，交通事故の発生や公共交通機関の遅れのもととなる。
- ・歩道が途切れる場所の段差がひどく，自転車，車椅子の方にとって不便。
- ・除排雪の歩道軽視。(歩道に堆積し歩行迂回を余儀なくされる)
- ・街灯を増やしてほしい。
- ・除雪方法の工夫やロードヒーティングを増やしてほしい。

(3) その他住民のニーズについて

- ・旧グルメシティ五稜郭を有効活用する。
- ・シャッター街が増えているので，若者が集まれるカフェ，ファミレス等を増やしてほしい。
- ・車椅子の方や高齢者が入りやすいバリアフリーの店を増やしてほしい。
- ・読書や勉強と軽い食事ができる店がほしい。
- ・ゴミ袋をもっと安くしてほしい。
- ・ゴミ，たばこのポイ捨てが多い。
- ・パチンコ店が多い。

8. 歴史的遺産の保存, 継承について

テーマに関する主な意見

- ・「見せることが保存につながる」、歴史的な建物をどんどん公開していく。
- ・歴史的建造物を多くの人に見てもらうためには、行ってみたい（公開範囲を広げる）、行きやすい（交通の便を良くする）と思わせる。
- ・美術館や博物館等の特別催事を設けるなど、観光客だけでなく市民にも、もっと足を運んでももらう工夫が必要ではないか。

テーマ2. 子ども・高齢化

1. 水産海洋都市函館における食育について
2. 高齢者の見守り活動
3. 高齢化社会でのまちのあり方, 銭湯問題について
4. 若者の生き方, 若者のために市が行っていることについて
5. 子どもの生活環境, いじめや暴力に関する予防について

1. 水産海洋都市函館における食育について

テーマに関する主な意見

- ・ 地元の海産物をただ給食に出すだけではなく、現場で漁を体験させる研修などを行い、漁師との交流などを通じて地元の海産物に対する意識を子どもたちに芽生えさせるとともに、水産資源の価値を理解させることで、食育に繋げる。
- ・ いかめしの調理実習など、地元の食材を使うことで地産地消の食育を行う。
- ・ いかめしに対する、日本全国での人気や評判などを子どもたちに伝えることなど、地元食材の価値をもっと知ってもらう努力が必要。
- ・ 小学校からの食育が重要。特に函館に縁のある海産物（いかなど）に対する正しい知識や生態とともに、調理実習による体験などを行うことで、将来的に、函館を食で語れる観光大使の育成にも繋がるのではないかと。

2. 高齢者の見守り活動

テーマに関する主な意見

(1) 町会などを通じた高齢者が参加しやすい行事の開催

- ・ 目的を安否確認だけにせず、高齢者が参加しやすい地域の行事をつくり、結果として見守り活動に繋がるような仕組みづくりが重要。(弥生小の公開授業への参加など)
- ・ 町会や市が主導して、月に1, 2回程度、地域の高齢者が参加しやすい活動を行う。

(2) 高齢者との連絡手段の確保

- ・ 自宅で生活しながら、自治体などへ簡単に繋がる通信手段を確保しておけば、(ボタン一つで連絡が取れるような仕組み) 安否確認が容易になる。
- ・ 人と会うことが苦痛な方もいる。電話回線などを利用した、会わなくても安否確認できる仕組みも必要。
- ・ 「回覧板」をきっかけにする。
- ・ 見守りが見張りにならないようプライバシーに配慮する。

3. 高齢化社会でのまちのあり方，銭湯問題について

テーマに関する主な意見

(1) 高齢者を支える環境づくり

- ・身体機能の衰えなどによる行動範囲の縮小など，不自由な生活を送る方への環境づくり（地元商店街や小規模銭湯などの維持存続）が必要。
- ・高齢者のための雪かきボランティアなど，生活に密着した取り組みを若い人の力を借りて実現する。
- ・無料交通パスを発行するなど，高齢者にどんどん外へ出てもらうための環境づくりが必要。（体力的に行動できるけど，出かけるのが億劫だと思って引きこもりがちの高齢者に対して，外出したいと思わせることが必要）
- ・地域によっては，銭湯を必要とするところもある。市として現状を調査した上で，銭湯を存続させるための対策（経営補助など）を講じる必要があるのではないか。

(2) その他の意見

- ・元気なお年寄りが増えることはとても良いことだと思う。

4. 若者の生き方, 若者のために市が行っていることについて

テーマに関する主な意見

(1) 若者が暮らしやすいまちづくり

- ・新聞を読まない若者層は函館の活動に無関心な人が多いので, 函館の活動を知ってもらうため, 若者が集まりやすい場所(飲食店やアミューズメント施設, 美容室など)に函館に関する情報のポスターを定期的に発行して周知を図る。
- ・雇用先の確保が不可欠。雇用先の多い大都市圏に若者人口が流出するのは当然。若者にとって魅力ある企業をもっと増やすことが先決。
- ・転勤族のための函館町案内。(北見市の事例を参考)

(2) その他の意見

- ・若者が, ずっと函館で暮らしていきたいと思ってもらうには, 夢を持てるような機会を与えられると良いのではないか。
- ・函館に残りたいという愛着心を大事にすることが必要。
- ・若者が様々な情報を知る手段がない。ブログやツイッターでは情報が少ない。主婦はみなみ風やまちづくりセンターなどで情報を得ることが多い。

5. 子どもの生活環境、いじめや暴力に関する予防について

テーマに関する主な意見

(1) 学校における教育環境について

- ・ 小学校のプールの有無等，学校によって設備に差があることは，市全体として考えると，平等な教育環境とはいえないのではないか。児童全員が，平等な教育を受けることができるようにするための方法を考える必要がある。
- ・ 学校施設については，学校間で差が生じていたとしても，それぞれの学校における教育環境の中で，いかに児童や生徒を育てていくのかというところが大事だと思う。

(2) その他子どもの生活環境などに関する意見

- ・ 子どもを取り巻くいじめや暴力について，予防教育が必要。
- ・ 周囲の保護者や教師など大人がいじめ問題への対応について理解していないと解決につながらない。対応方法の周知や講義を行う場を設けることが必要。
- ・ いじめられている子は親に知られたくない，話せないと思うので，いかに話を聞いてあげる環境を作ってあげるかが大事。
- ・ いじめを行っている側へのケアをしっかりとあげることが重要。(いじめた理由などを聞いてそれを取り除く機会が必要)
- ・ 伸び悩む出生率には，こどもを安心して育てられない経済不安が大きい。
- ・ キャリア形成のための機関・施設を増やす。(キッザニア・ジョブカフェ・起業塾など)
- ・ 心身共に軟弱になっていて心配。苦難を乗り越える意思の強さがない。
- ・ 親子関係・師弟関係等上下関係があいまいになっている。指導する立場の人間が，もっと自信を持って子どもたちを指導してほしい。

テーマ3. 経済の活性化・観光の振興

1. 市の活性化を考える

(若い人をはじめ, 高齢でも働ければ活性化する)

2. 商業の発展に必要なものについて

3. ゆるキャラランド招致実現へ向けて

4. 函館の活性化に繋がるイベントや施設について

5. 観光を最大限に生かす方法

1. 市の活性化を考える（若い人をはじめ，高齢でも働ければ活性化する）

テーマに関する主な意見

(1) 若者が暮らしたいと思えるまちづくり

- ・ 駅の中におしゃれなカフェを作るなど駅前の活性化。
- ・ 電車停留場をもっとおしゃれにする。
- ・ 若者が興味を持てる施設（ウインドウショッピングや全国チェーンの飲食店などの複合施設の存在）があると，若者離れが緩和できるのではないか。
- ・ 車を持っていない若者は行ける場所が限られている。公共交通の便が良い五稜郭や大門に若者が興味を持てる施設を作ると効果的。
- ・ 若者が集える公共の施設（スポーツ・ダンス・音楽など）を作る。（市の空き土地有効活用できないか）
- ・ 大門のシャッター街の有効利用。（若者に短期間で安価に貸し出してみる）経験になるし，経営の勉強にもなるのではないか。
- ・ G L A Yのライブを恒例化できれば経済効果が大きい。（G L A Yの規模のイベントを恒例化できる場所の整備）
- ・ 若者が函館から出ないで留まりたいと思える魅力的な就職先が，より増えると将来の見通しが明るくなる。

(2) その他活性化に関する意見

- ・ ラッキーピエロは地元と観光客の両方から愛される企業としての成功例。函館らしさ溢れる魅力ある企業が増えると地元の活性化に繋がる。
- ・ 函館の名産・資源を地元の人知らない。（興味関心がない）

2. 商業の発展に必要なものについて

テーマに関する主な意見

(1) 魅力ある企業等の誘致

- ・若者に人気のあるファッション店や飲食店の誘致をし、「函館に行けば〇〇がある」というイメージが定着すれば経済の活性化になり、見るだけの観光に消費の楽しみもプラスされるのではないか。
- ・新たに建設中のアリーナの活用として、国際会議や学会などを国内外から誘致してほしい。(空港から近く、宿泊先も豊富で立地条件の良さ・夏場の気候条件などアピールポイントが多い)
- ・合宿所を建設し、スポーツチームや他の分野の研修などの場所として、国内外から誘致する。
- ・ショッピングモールやアウトレットパークなど、お店がたくさん集まっているところには、買うだけでなく見る楽しみ、行く楽しみが詰まっている。函館にもそういう場所があれば、買い物客が増えるのではないか。
- ・会社や工場などの企業誘致が、経済の活性化に繋がる。

(2) 新幹線開業に向けた発展

- ・新幹線開業に向けたまちづくり。(商店街や交通網の整備)
- ・駅前の活性化。

(3) その他の意見

- ・観光の振興が、函館の経済を支えている。
- ・ウインドウショッピングができる場所がない。

③ ゆるキャラランド招致実現について

テーマに関する主な意見

- ・キャラクターを作るなど大人から子どもまで広範囲にアピールできるものを考察する。
- ・「ゆるキャラ」をどのくらいの市民が望んでいるのか、事前に把握する必要があるのではないか。
- ・「ゆるキャラ」を作るならみんなに関心を持ってもらえるように周知するとともに、函館の歴史の重さにふさわしいキャラクターを考える必要がある。

4. 函館の活性化に繋がるイベントや施設について

テーマに関する主な意見

(1) 活性化に繋がるイベントについて

- ・食が有名な函館なので、もっと色々な人に函館の食を知ってもらうために、A級グルメ大会（B級ではなく）を定期的に行い観光客増に繋げる。地元の海鮮丼やガゴメ昆布などを活用する。
- ・バル街や民俗祭などの大規模イベントが一過性のものになっているのでイベント中に、後日使えるクーポンや情報誌の配付などで今後につなげる努力をする。
- ・コンサート会場があれば観光客増に繋がる。定期的なライブ（夏フェスなど）をやれば人が集まる。
- ・日常的にイカール星人を函館のまちを歩かせるなど、突飛な話題づくりもおもしろい。

(2) その他の意見について

- ・空港の有効活用。イベント時に会場と繋がるバスの臨時運行。
- ・空きビルの有効活用。学生が多い本町はカフェや服屋、雑貨屋などを入れれば必ず人が集まる。
- ・道外から人を呼び込むために、飛行機の運賃が安い時期に合わせてイベントを開催する。
- ・イベントには、外の人（観光客）を呼び込むためのイベントと、市民が楽しめるイベントがあると思うが、バル街や民俗祭など地元で根ざしたイベントを継続して行うことが、結果として観光客にも広く認知され、地域の活性化に繋がるのではないか。

5. 観光を最大限に生かす方法

テーマに関する主な意見

(1) 観光客がわかりやすい情報提供について

- ・観光客にわかりやすいルートを作成。
- ・「くまなく歩かないと見つからない名店」が多いので、夜景や赤レンガなどスポットではなく、エリアを紹介する広報が必要。隠された魅力をアピールする方法を考える。
- ・観光客へのアンケートなど意見の聴取。

(2) 地元の人への「観光」の意識付けについて

- ・地元の人への観光の考え方に新しい情報提供をする。（考え方が固定化しないよう新しい情報を提供する）
- ・観光客への市民の対応。（市全体で観光を盛り上げる共通意識を植え付けたい）
- ・「誰でも観光大使講習会」のような市民向けに函館の魅力を理解してもらうイベントを開催する。
- ・観光地と居住区が切り離されている。外向きだけでなく内向きの観光の形やアピールも重要。

(3) 滞在型（連泊）観光について

- ・滞在型にするためには周辺市町との連携や全国的には無名な観光名所を掘り起こし、プレゼンできるように考えることが必要。
- ・道南に連泊してもらえるような道南観光のモデルコースを作る。
- ・ウェブページを利用し連泊滞在型コースを全面にPRする。「函館観光」と検索したら最初に連泊滞在型のページがでるような工夫をするなど、いかに滞在型のプランを観光客に周知することができるかが重要。

(4) その他観光に関する意見

- ・新幹線開業後の函館滞在のため、駅からのシャトルバスの充実、荷物を宿泊先に届ける荷物サービスなどが必要。
- ・クリスマスファンタジーのイベントに函館山の夜景を目玉としてプラスし、ツリーの場所と函館山間のシャトルバスを運行する。

人口減少に関するアンケートについて

本市をとりまく状況の中で、特に問題となっているのが、人口減少についてです。近年では、年間約3,000人のペースで減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には、本市の人口が約17万人となる見込みであるなど、今後のまちづくりに与える影響は非常に大きいことから、まちづくり会議委員に対して、人口減少に関するアンケート調査を行い、下記のとおり様々な意見が出されました。

質問1 少子化対策としてどのような取り組みが有効であると考えますか？

- ・女性が定年まで安心して働ける職場環境を目指す。(産休や保育等)
- ・医療費、教育費等の軽減および子ども手当等、助成の充実。
- ・子どもを生み育てやすい環境づくり。
- ・安定した収入を得るため、経済を活性化させる政策が必要。
- ・物価を下げる政策が必要。
- ・街コンの宣伝をもっと行う。(チラシやCM, 地域間での情報提供など)
- ・若者向けのイベントや施設を増やすことで若者が函館で暮らしたいと思うようになるのではないか。
- ・大手企業などの誘致で地元の就職先を増やすことが重要。
- ・男らしい男性(体を鍛える, 肉食系男子)を増やす。
- ・若者にとって魅力的であることが求められる。
- ・観光地としては魅力的でも定住にはマンネリを感じている若者が多い。

質問2 少子化の原因のひとつとされている未婚化・晩婚化について、その原因をどのように考えますか？

- ・低賃金。（結婚後の資金面に不安がある）
- ・定職に就けないことから将来的に不安がある。
- ・女性が一人で生活できるようになった。（女性の収入の増加）
- ・女性が強く、男女の立場が逆転している。
- ・独身貴族が多くなった。
- ・社会が豊かになり選択肢が広がったため。
- ・産休・育休を取得できる職場が少なく社会復帰に不安があるため。
- ・両親が過保護で子どもを手放さない。

質問3 近年、街コン等が開催されており、そのような男女の出会いの場をつくっていくことは少子化対策の一助になると思いますが、若者世代が交流するイベントや機会についてアイデア等があればお願いします。

- ・未婚の男女が行ける飲食店を市が運営する。
- ・港まつりの中に男女が交流できるイベントを入れる。
- ・異業種交流会を開催。
- ・若者が参加しやすい気軽に楽しめる会を計画する。
- ・一度きりでなく継続される機会をつくる。（菜園づくりなど）
- ・街コンの規模が大きい。年齢層や人数を限定するなど、気軽に参加できるもののほうがより交流が深まるのではないか。
- ・家賃の補助だけでなく車の補助等を企業と協力して行う。
- ・入籍するメリットをアピールして出会い後の発展に繋げる。街コンで成立したカップルが結婚したら、新婚旅行をプレゼントするなど。

質問4 行政が行うべき取り組みがあればご意見をお聞かせください。

- ・ 企業の誘致。
- ・ 子育てへの経済的支援の拡充。
- ・ 遊ぶ行事だけでなく学びの場での出会いも重要。一般教養などのイベントを数多く開催する。(まちづくり会議のようなスタイルも良い)
- ・ 自治体が魅力的なまちづくりをして他都市への流出を防ぎ若者が残りたいと思うのが理想。

質問5 その他の意見や人口減少に対する印象等についてお聞かせください。

- ・ お金や制度だけでは子どもは増えない。
- ・ 人口減や少子化について実感がない。
- ・ 結婚を決めるのは性格が合うか次に生活できる収入があるかで人それぞれだと思う。
- ・ 独身だが、将来どうなるのか不安を持っている。
- ・ 結婚を考えると自分の収入では厳しいと感じてしまう。
- ・ いずれ結婚はしたいが街コンなどに参加しようとは思わない。
- ・ 結婚がそれほど幸せな状態と思わないので出会うことに頑張らない。

【アンケート様式】

人口減少に関するアンケート

平成25年3月26日

函館市まちづくり会議委員各位

函館市企画部長 谷 口 諭

平成22年と平成17年の国勢調査を比較すると、本市の人口は約1万5千人減少しています。

この要因といたしましては、死亡者数が出生数を上回ることによる「自然減」と、進学や就業などのため大都市圏に流出する数が本市へ流入する数を上回る「社会減」となっております。

このうち、「社会減」につきましては、市といたしまして産業・経済政策や雇用環境の改善、子どもを生み育てやすい環境づくりなどの施策を多面的に実施しているところではありますが、「自然減」につきましては、全国的にも少子化が進む中、その対策については、国が抜本的に取り組むべき課題であると考えております。

また、子どもを生み育てることについては、基本的に個々人の価値観によるべきものでありますが、皆様から、人口減少に関するご意見をいただき、今後の参考とさせていただきたいと思っておりますので、ご回答にご協力くださいますようお願いいたします。

- 1 少子化対策として、どのような取り組みが有効であると考えますか？
- 2 少子化の原因のひとつとされている未婚化・晩婚化について、その原因をどのように考えますか？
- 3 近年、街コン等が開催されており、そのような男女の出会いの場をつくっていくことは少子化対策の一助になると思っておりますが、若者世代が交流するイベントや機会についてアイデア等があればお願いします。
- 4 行政が行うべき取り組みがあればご意見をお聞かせください。
- 5 その他の意見や人口減少に対する印象等についてお聞かせください。

付属資料

■ 開催状況

第1回

日時 平成24年10月23日(火)

内容 委員の紹介
市長との懇談

第4回

日時 平成25年5月28日(火)

内容 フリーターキング
・テーマ 経済の活性化・
観光の振興

第2回

日時 平成24年12月13日(木)

内容 フリーターキング
・テーマ 市民生活

第5回

日時 平成25年7月30日(火)

内容 意見集の取りまとめ

第3回

日時 平成25年3月26日(火)

内容 フリーターキング
・テーマ 子ども・高齢化

第6回

日時 平成25年9月30日(月)

内容 意見集の手交
市長との懇談



■ 委員名簿（五十音順・平成24年10月1日現在）

女性委員

区分	氏名	所属
団体推薦	藤澤 晴枝	函館消費者協会理事
	入江 真弓	CAPみなみ北海道
	折谷 久美子	みなとまちづくり女性ネットワーク函館代表
	森木 妙子	函館市ボランティア連絡協議会副会長
	谷藤 ミチヨ	公益社団法人函館法人会女性部会理事
一般公募	吉川 瑞姫	公募委員
	銭谷 加奈	公募委員
	石山 智恵	公募委員
	伊藤 結	公募委員

若者委員

区分	氏名	所属
団体推薦	中山 治	函館青色申告会青年部長
	川崎 啓太	一般社団法人北海道中小企業家同友会函館支部幹事
	菊地 優	北海道大学水産学部
	永松 菜実	ロシア連邦総合大学函館校
	前川 未来	財団法人北海道国際交流センター
一般公募	高田 凱也	公募委員
	佐々木 杏菜	公募委員
	工藤 優太	公募委員
	横山 喬人	公募委員
	家地 敦子	公募委員

函館市まちづくり会議設置要綱

(設置)

第1条 市政の目標である「活気に満ちて、だれもが幸せに暮らせるまち」の実現に向け、女性や若者の視点からの意見等をまちづくり施策に反映させるため、函館市まちづくり会議（以下「会議」という。）を設置する。

(組織)

- 第2条 会議は、女性委員、若者委員それぞれ10人以内をもって組織する。
- 2 女性委員は、市内に住所を有する満18歳以上の者とする。
 - 3 若者委員は、市内に住所を有する満18歳以上満39歳以下の者とする。

(任期)

第3条 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、再任は1回限りとする。

(会議)

第4条 会議は、市長が招集する。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、企画部計画推進室計画調整課において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営について必要な事項は、その都度協議して定める。

附 則

この要綱は、平成23年8月18日から施行する。